

# 「優しや」と「思いやり」のある企業へ

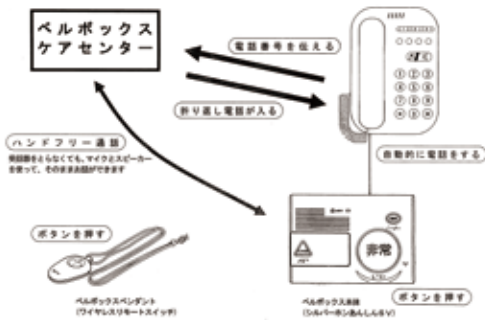
— よろず相談 信用金庫 但陽信用金庫 —

## 「地域に寄り添う金融機関

但陽信用金庫では、よろず相談 信用金庫をコンセプトに掲げ、NPO法人但陽ボランティアセンターを立ち上げ、地域のお年寄りや、体の不自由な方の手助けになれるよう取り組んでいる。現在取り組んでいる中心的な活動は、「移送サービス」と「ベルボックス」のふたつのサービスだ。

車椅子で生活されている方の移送をする「移送サービス」は、リフト付車両4台を導入し、病院だけでなく、買い物やレジャーなどの移動を支援している。

また、「ベルボックス」は、利用者がボタンを押



すと、ボランティアセンターに自動的に電話が

つながる仕組みである。電話を受け、利用者のもとにスタッフが電話をかけなおし、救急車を手配したり、直接駆けつけたりする。「さみしいから」というのでも大丈夫なんですよ。そんな時はいろんなお話をしています」と語るのは理事長の桑田純一郎さん(右写真)。このほかにも、独居高齢者宅を涉外担当者が訪問し、話をしながら安否確認を行っている。「守るとというのが我々の役割。地域に根ざした金融機関の役割であると考えています」

これらの活動のきっかけは阪神・淡路大震災だ。被災地の惨状を目の当たりにし、何かできることはないかと、全国各地から集まってきた援助物資の仕分けや、加古川周辺に設置された仮設住宅での困りごとの解決などのボランティアが始まった。参加した職員からは「ボランティアとはこんなに簡単なものだったのか」「こんなちょっとしたことで言ってももらえるのか」などの声が寄せられた。

## 「企業を挙げてのボランティア活動

」ボランティアは人間を成長させる。素晴ら



しい話を聞くよりも実践するということに大きな意味がある。『してあげる』というのではなく『させてもらう』という思いで続けていきたい」と桑田理事長は穏やかな笑顔で話す。

但陽信用金庫の取り組みの特徴は、特別な部署を設けるのではなく、全職員がローテーションを組んでボランティアに参加できる仕組みをつくっている点にある。ボランティアができるということでも入社したいという学生も多い。ボランティアによって成長し、優しさと思いやりを身につけることができる。これが企業にとってプラスになると考え、教育訓練の「環」として行っている。

「この活動は永遠に続けていきたい。優しや、思いやりのある企業になりたいと思っています。お声かけいただければ、どんなでもお送りします。私たちも高齢になってくるのでいずれお世話にならないといけないからね」

### 但陽信用金庫

所在地 加古川市加古川町溝之内539番地  
TEL 079-142217721  
URL <https://www.tanyo-shinkin.co.jp/>